

シグマ研究/専門委員会核データ情報/評価専門部会
弾性散乱, 非弾性散乱W.G. 第2回会合議事録

日 時 昭和44年12月11日(木)

場 所 原研本部第2会議室

出席者 村田, 金森, 松延, 鹿取, 中村, 中嶋, 山越, 神田, 五十嵐

配布資料

1. 弾性, 非弾性散乱W.G. 作業の進め方メモ(案)
2. ELIESE-2 Input Format による弾性散乱角分布データのリスト
3. 収集したデータのパンチカードフォーマット(案)

議 事

前回会合において決められた「作業の進め方」の大綱を基に更に具体的な作業内容についての検討を行なった。配布資料1に従って以下の各事項が決められた。

1. 実験の質の判断

A) データから見た基準

- i) ΔE , $\Delta \sigma$, $\Delta \theta$ が明示されているもの
- ii) lower level の excitation が明確であるもの
- iii) 測定点の多いデータ
- iv) 補正がほぼ完全になされているデータ

B) 測定法, 装置から見た基準

A) に従って集められたものから更に選択を必要とする場合に考える。

C) Standardとなるデータを決める。

各核種について標準となるデータを決める。他のデータとの比較を行なう際の reference data とする。

2. 文献から取ったデータのパンチカードフォーマット

調べた文献から取ったデータ及びグラフから読み取ったデータは直接パンチカードフォーマットシートに記入する。グラフから取ったものはその旨を示すために著者の後に (G) をつける。

A) 微分散乱断面積データ

ELIESE-2 の Input Format に従う。(JAERI-1169参照)

現在収集してあるデータは配布資料2に示されている。

B) A) 以外のデータのフォーマットは配布資料3に従う。

3. グラフプロット

グラフ用紙はJIS A4 180×250 セビアの log-log, semi-log, linear を使うことを原則とするが、データの質を判断するために行なり作業では各自の判断で決める。

但し、微分弾性散乱断面積は semi-log の用紙とする。

4. データシートに記入する内容

i) 調べた文献はすべて記入する。

ii) SCISRS & NEUDADA のコメントは参考とし、必要事項は記入する。

5. その他

i) SCISRS & NEUDADA のデータには Legendre 展開係数があるが、それは参考データとする。

ii) $4\pi\sigma(90^\circ)$ のデータは、 90° のデータとして扱う。

iii) 作業の区切は3月一杯を目標とする。

6. 次回 1月末